

コリントの信徒への手紙二：学びの手引き

関係や信頼が揺らぐとき、真実なキリスト者の奉仕はどのような姿を取りますか。

コリントの信徒への手紙二は、見栄えではなく、十字架につけられ復活されたイエスによって形づくられる奉仕を、パウロが弁護する姿を示します。計画変更を説明し、和解を願い、惜しめない支援を整え、反対者に答えます。苦難と弱さだけで権威が立証されるわけではありません。パウロは弁護を、真実な行動、犠牲を伴う奉仕、キリストにある共同体の成長と結び付けます。

背景の中で手紙を読む

背景には以前の手紙、苦痛を伴う訪問、テトスの知らせが絡む緊張した関係があります。通常、紀元50年代半ばから後半のマケドニアでの執筆と再構成されます。パウロの著作という点は広く認められますが、正典の本文が複数の手紙をまとめたものか、特に10～13章について議論があります。全やり取りや順序を復元できると装わず、現在の形を丁寧に読みましょう。

聖書の参照箇所: コリントの信徒への手紙二 1章12節 – コリントの信徒への手紙二 2章13節・コリントの信徒への手紙二 7章5～16節

出典: primary, brown

論の流れをたどる

神から受ける慰めは他者への配慮となります。パウロは新しい契約に仕える働き、弱い使者、キリストによる和解、共同体を超える寛大さを展開します。苦しみと幻の記述は、キリストの恵みへの依存へ至ります。献金の章は、自発的な献金と公の説明責任を伴い、霊的交わりに物質的な意味があることを示します。結びの厳しい警告の目的は、支配をたたえることなく回復です。

聖書の参照箇所: コリントの信徒への手紙二 3章1節 – コリントの信徒への手紙二 5章21節・コリントの信徒への手紙二 8章1節 – コリントの信徒への手紙二 9章15節・コリントの信徒への手紙二 12章1節 – コリントの信徒への手紙二 13章14節

出典: primary

慰め、計画変更、赦し

コリントの信徒への手紙二 1章1節 – コリントの信徒への手紙二 2章17節

パウロは苦悩、神への信頼、一部の読者が疑問を抱いたと思われる旅程変更を述べます。信徒の喜びを願う思いを説明し、戒規を受けた人を赦すよう求めます。悔い改めた人を回復させることは、被害を否定したり説明責任をなくしたりすることとは違います。

考えてみよう

パウロの応答の中で、誠実さ、他者への配慮、赦しはどのように働きますか。

もろい器に託された宝

コリントの信徒への手紙二 3章1節 – コリントの信徒への手紙二 4章18節

パウロは霊に仕える働きと有罪宣告を対比し、苦しむ使者を神の宝を運ぶもろい器として描きます。モーセの読み方は新しい契約についてのキリスト教的説明を展開しますが、ユダヤ人への侮蔑に変えてはいけません。人間のもろさは神の力を際立たせるもので、不正直の弁明ではありません。

考えてみよう

宝の価値は、使者が傷つかない人に見えることに依存しないのはなぜですか。

和解と開かれた心

コリントの信徒への手紙二 5章1節 – コリントの信徒への手紙二 7章16節

将来の復活への希望が、今の忠実さに切実さを与えます。神はキリストによって和解させ、その使者に和解の務めを託します。心を開くよう求めるパウロの願いには、道徳的真剣さと悔い改めへの喜びが伴います。相いれない関係への警告は神への忠実さについてであり、未信者との全関係から退くことではありません。

考えてみよう

変化に至る悲しみと、自分の見え方を守るだけの悲しみは、どこが違いますか。

誠実さを伴う寛大さ

コリントの信徒への手紙二 8章1節 – コリントの信徒への手紙二 9章15節

マケドニアの寛大さとキリストの自己献身が、エルサレム献金の背景です。パウロは資力を超える強制ではなく、持っているものに応じた自発性を求めます。信頼できる仲間が贈り物を扱い、誠実さを守ります。農業の比喻は寛大な参加への励ましであり、寄付によって個人の富を買えるという保証として読むはいけません。

考えてみよう

自発性、資力に応じること、透明な管理は、献げる側と受ける側をどう守りますか。

信頼できる奉仕者を示すもの

コリントの信徒への手紙二 10章1節 – コリントの信徒への手紙二 11章33節

パウロは印象の強さに基づく比較に異を唱え、競争相手の主張に、意図的に居心地の悪い苦難の列挙で答えます。その権威は共同体を建て上げるためにあります。苦しみへの忍耐は彼の物語の一部ですが、この箇所は虐待的な指導を信用させたり、欺きを見過ごすよう求めたりはしません。

考えてみよう

パウロの奉仕の説明は、反対者が重んじていると思われる資格をどう覆しますか。

弱さに十分な恵み

コリントの信徒への手紙二 12章1節 – コリントの信徒への手紙二 13章14節

パウロは特別な経験を自分の土台にすることを拒み、繰り返し取り去ってくださるよう神に願った、正体の明かされないとげを述べます。本文から確実な医学的診断はできません。キリストの恵みが彼を支えます。手紙は、忠実な人は決して苦しまないという約束ではなく、自己吟味、回復、平和で結ばれます。

考えてみよう

恵みに頼ることは、苦しみからの解放を誠実に祈り、具体的に配慮することとどう両立しますか。

出典

- [primary] 2 Corinthians; primary biblical text. Reading references only; no Bible text is reproduced in this resource. <https://ebible.org/eng-web/2CO.htm>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapter 23. Background and scholarly discussion; not an endorsement of every interpretation in this study.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/study-2-corinthians>